

未来を生きる力を身に付けた、たくましい子の育成

《令和4年度後期との比較》

※評価方法は裏面に記載

<視点1>【安全・安心の保障】

具体的な取組	アンケート結果				自己評価	成果と課題及び分析	改善策・最終評価での目標数値
◇いじめ・不登校への取組推進 ・未然防止(居場所づくり・絆づくり)の取組推進 ・アンケート調査の計画的実施 ・児童理解の会での情報共有と共通行動 ・いじめ対策チームの日常化 ・迅速かつ組織的な初期対応 ◇安全教育の推進 ・学校の新しい生活様式の工夫と徹底・継続 ・登下校時の安全指導及び危機の予測と回避 ・計画的かつ実体験を伴う避難訓練の実施 ・危機管理マニュアルの充実 ・食物アレルギーへの適切な対応	児童	学校は楽しい。	100%	➡	a	4	【目標数値:児童「自分にはよいところがある」95%】 ・学校行事やクラスの活動での振り返りで、友だちのがんばりだけでなく、自分のがんばりや成長を評価し、互いに認め合う場面を設定することで、具体的な自分のよさに気づかせる取組をすすめる。 課題① 自分のよさに気付かせる指導 → ・自分のがんばりや成長を評価 ・具体的な自分のよさに気づかせる
	保護者	お子さんは、「楽しそうに学校に行っている」と思いますか。	93%	➡	a	4	
	児童	困っている友だちがいたら、助けてあげようとしている。	100%	➡	a	4	
	児童	自分にはよいところがある。	86%	↔	b	3	
	保護者	学校は、親切・思いやりの心を育てようとしていると思いますか。	96%	↔	a	4	
	児童	学校のきまりを守って、生活している。	96%	↔	a	4	
	教員	児童が学校のきまりを守り、安全に生活できるよう指導している。	89%	↓	a	4	
	児童	みんなで協力して取り組み、うれしかったことがある。	100%	↔	a	4	
	保護者	学校は、いじめのない学校づくりに取り組んでいると思いますか。	96%	↑	a	4	
	保護者	先生は、子ども達のことをよく理解しようとしていると思いますか。	96%	↔	a	4	
	教員	児童同士のよりよい人間関係づくり(いじめ・不登校の未然防止)に努めている。	100%	➡	a	4	
	教員	児童の小さな変化に気づいたときは、すぐ行動している。	100%	↔	a	4	
	保護者	学校は、児童の安全を守るために努力していると思いますか。	100%	➡	a	4	
	教員	定期的に危機管理マニュアルを確認して行動している。	89%	↔	b	3	

3.9

<視点2>【学力の保障】

具体的な取組	アンケート結果				自己評価	成果と課題及び分析	改善策・最終評価での目標数値
◇学習に向かう基本の定着 ・授業のルール(学習用具・挨拶・着ベル等)の定着 ・基盤づくりの取組(拳手・反応・ノートづくり) ◇対話的で深い学びへの授業改善 ・学習量のあるテンポのよい授業実践 ・正しい表現力をつけるための授業改善 ・適切な発問・指示 ・話し合い活動の工夫 ・外部講師を招いての研修 ◇ICT機器の活用 ・積極的な一人一台端末の使用 ・ICT機器の効果的・効率的な活用 ◇学習習慣づくり ・家庭学習習慣づくりの取組 ・自学学習の奨励 ・補充学習等個別指導の充実	児童	授業の内容はよくわかる。	89%	↓	b	3	【目標数値:児童「授業の内容はよくわかる。」100%】 ・学校研究で行っている具体的取組の量と質について、全職員で共通理解を図るとともに、児童が達成感や満足感を味わうことができるよう、学習量のあるテンポのよい授業を日々実践していく。 ・校内支援体制を充実させ、困り感を持っている児童への支援のあり方について検討し共通実践する。 課題② 学力向上 → ・学校研究の取組 ・テンポのよい授業 ・個別の教育的支援 課題③ 家庭学習の改善 → ・家庭学習 量と質の改善 ・ネット利用「家庭のルール」の順守
	児童	失敗してもあきらめずに、取り組もうとしている。	100%	↔	a	4	
	保護者	お子さんは、授業(勉強)の内容がよくわかると感じていますか。	79%	↔	c	2	
	教員	個々の習熟状況に応じて、補充的・発展的な指導を行っている。	83%	↔	b	3	
	教員	分かりやすい授業となるよう、ICT機器(モニター・タブレット等)の積極的な活用を努めている。	83%	↔	b	3	
	児童	授業では、話し合うことで、よく分かるようになる。	93%	↔	a	4	
	教員	児童に説明・記述させる授業への改善をすすめている。	83%	↓	b	3	
	児童	毎日、家庭学習の目標時間を守って取り組んでいる。(1・2年 30分、3・4年 45分、5・6年 60分)	89%	➡	b	3	
	保護者	お子さんは、すすんで学習に取り組んでいますか。	64%	↔	d	1	
	保護者	お子さんが家庭学習に取り組む姿は、十分だと感じていますか。	64%	↓	d	1	
	教員	家庭学習の量や質が改善するように指導している。	100%	↔	a	4	
	児童	規則正しく生活している。(起きる・ご飯を食べる・寝る時刻を守っている。)	93%	↑	a	4	
	保護者	お子さんは、早寝・早起きをしていますか。	75%	↓	c	2	
	教員	規則正しい生活となるよう指導している。(起床・食事・就寝の時刻)	100%	↔	a	4	
	児童	家で、インターネットは1日にどれくらい使っていますか。(A:30分未満 B:30分~1時間未満 C:1時間~2時間未満 D:2時間以上)	54%	↔	d	1	
	保護者	お子さんは、インターネットの使用についての「家庭のルール」を守っていますか。	57%	↔	d	1	
	教員	ネット利用のきまりの必要性や守ることの大切さを指導している。	67%	↔	d	1	

2.6

<視点3>【成長の保障】

具体的な取組	アンケート結果				自己評価	成果と課題及び分析	改善策・最終評価での目標数値
◇体力・運動能力の向上 ・体力アップ1校1プランの推進 ・スポチャレいしかわの取組推進 ◇キャリア教育の充実 ・働くことの喜びを知る活動 ・将来の夢や希望を語る活動 ◇認め合える集団づくりの取組 ・道徳教育及び個に応じた特別支援体制の充実 ・主体的な児童会活動の取組 ・縦割り班活動の充実 ◇読書活動の推進 ・家庭読書活動の推進 ・読書ボランティアとの連携 ◇SDGsの視点での体験学習の充実 ・地域の人・もの・ことを学ぶ(本物に触れる)機会の充実 ・まちの先生の活用	児童	自分には夢がある。	96%	a	4	B ○児童「自分には夢がある。」と回答した割合は96%いる。 △教員「将来の夢や希望を語る活動」に取り組んでいる割合は67%である。 →キャリア教育県間指導計画に沿った指導が不十分では？ ○児童が互いのがんばりを認め合ったり、先生が児童のがんばりをほめたり認めたりしている数値がどちらも96%である。 →現在の取組を継続して取り組んでいくとよいのではないかと。 ○児童「地域のことについて、いろいろなことを学んでいる」割合が96%である。(保護者も同様) △教員「まちの先生を積極的に活用している」割合が80%である。 →見直しをもってまちの先生の活用をすすめる必要があるのではないかと。	【目標数値:教員「「将来の夢や希望を語る活動」に取り組んでいる」100%】 ・キャリア教育県間指導計画を再確認し、計画に沿った指導をすすめる。 課題④ キャリア教育の推進 →・キャリア教育 計画的な取組 【教員「まちの先生を積極的に活用している」100%】 ・地域を愛し、地域に愛される児童となるために、計画的なまちの先生の活用をすすめる。 課題⑤ まちの先生の推活用 →・まちの先生 学期2回以上の活用
	保護者	お子さんには、夢がありますか。	79%	c	2		
	教員	将来の夢や希望を語る活動に取り組んでいる。	67%	d	1		
	児童	学校では、友だち同士でお互いのがんばりを認め合う場面がある。	96%	a	4		
	児童	先生はがんばったことをほめたり、認めたりしてくれる。	96%	a	4		
	児童	家族や地域の人に、自分からすすんであいさつをしている。	100%	a	4		
	保護者	お子さんは、すすんで挨拶ができていますか。	89%	b	3		
	児童	地域のことについて、いろいろなことを学んでいる。	96%	a	4		
	保護者	学校は、地域と連携した体験活動にすすんで取り組んでいると思いますか。	96%	a	4		
	教員	まちの先生を積極的に活用している。	80%	d	1		

3.1

<視点4>【教職員にとって働きがいのある職場づくり】

具体的な取組	アンケート結果				自己評価	成果と課題及び分析	改善策・最終評価での目標数値
・個々のライフステージに合わせた受講の奨励 ・全職員での若手早期育成プログラムの計画的実践 ・業務改善の取組推進 定時退校日の実施・計画的な年休行使 一人一役での分掌・ワンペーパーでの起案 校務支援システムの活用	教員	本校の教育目標を具現化して、教育活動に取り組んでいる。	100%	a	4	A ○職員全てが本校の教育目標を具現化して、教育活動に取り組む、教師としての力量が高まるように努めている。 △午後6時30分を目安に退校できていない教員がいる。 →退校できない理由を明らかにするとともに、校務分掌を適宜見直し、業務の平準化・効率化をすすめる。	
	教員	教師としての力量が高まるように努めている。	100%	a	4		
	教員	業務の効率化をすすめ、午後6時30分を目安に退校している。	88%	b	3		

3.7

<視点5>【保護者・地域から信頼される学校づくり】

具体的な取組	アンケート結果				自己評価	成果と課題及び分析	改善策・最終評価での目標数値
・積極的な情報発信と開示による保護者との信頼関係の構築 ・コミュニティスクール制度を生かした「地域とともにある学校」への転換 ・公民館や地区行事と連動し、地域のよさを実感できる学習活動の企画と実施	保護者	学校は、保護者との連絡を密にしていると思いますか。	93%	a	4	A ○保護者は、「学校と保護者との連絡は密にしている」「学校からの情報発信は十分である」と感じている。	
	保護者	学校からの各種便りやホームページでの情報発信は、十分ですか。	96%	a	4		
	教員	地域・保護者へ、積極的に情報発信を行っている。	100%	a	4		

4.0

「アンケート集計から自己評価までの流れ」

- アンケート結果から、それぞれの項目をa~dの4段階に評価する
 「そう思う」+「だいたいそう思う」が90%以上 ⇒ a
 「そう思う」+「だいたいそう思う」が80%以上 ⇒ b
 「そう思う」+「だいたいそう思う」が70%以上 ⇒ c
 「そう思う」+「だいたいそう思う」が70%未満 ⇒ d
- ①の4段階の評価を、a=4 b=3 c=2 d=1とし、

- 以下の基準で平均値から自己評価を行う
 平均が3.6以上 ⇒ A
 平均が3.0~3.5 ⇒ B
 平均が2.4~2.9 ⇒ C
 平均が2.3未満 ⇒ D

- ↑ 5%以上増えている
 - ↑ 10%以上増えている
 - ↓ 5%以上減っている
 - ↓ 10%以上減っている
- ※令和4年度後期との比較

【保護者から】

- ・担任の先生は、小さなことでも連絡して下さい。以前から子どもが悩んでいたのが、どうすればよいかと私も悩んでいたところ、先生がお話を聞いて下さって私も子どもも安心しました。本当にありがとうございます。(3年)
- ・十分すぎるぐらいです。いつもありがとうございます。(3年)
- ・とてもよい学校だと思います。いつもありがとうございます。(6年)